

## 経営指標及び用語の説明

指標名称	定義	単位	内容目的
経費回収率 (p4, p6, p8, p28, p34, p35)	$[\text{使用料単価} \div \text{汚水処理原価}] \times 100$	%	使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているか表した指標であり、使用料水準等を評価することが可能。使用料で回収すべき経費を全て使用料で賄えている状況を示す 100%以上であることが求められる。
水洗化率 (p4, p6, p25, p30, p35)	$[\text{水洗化人口} \div \text{処理区域内人口}] \times 100$	%	現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を表した指標。公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から 100%となっていることが望ましいと言える。
施設利用率 (p6, p31, p35)	$[\text{晴天時一日平均処理水量} \div \text{晴天時現在処理能力}] \times 100$	%	施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。明確な数値基準はないが、一般的には高い数値が望ましいとされる。
一般会計繰入金 (p4, p6, p14, p17, p29, p35)	金額を計上	円	一般会計（市税収入を主な財源として行政の基本的事業に使う会計）から公営企業会計の運営のために繰り入れられる経費。 基準内（雨水排除費用、汚水処理費用のうち水質規制や高度処理など公共的役割を担う部分の経費）と基準外（繰出基準に該当しない一般会計繰入金。湖西市では企業債元金償還金や人件費への充当分が該当）
汚水処理原価 (p6, p32, p35)	$[\text{汚水処理費} \div \text{年間処理水量}]$	円/ m <sup>3</sup>	汚水処理費（公費で負担すべき経費を除く）を年間有収水量で除したものである。低い方が望ましい。

名称（記載頁）	定義
実質賃金（p11）	労働者が実際に受け取った給与である名目賃金から、消費者物価指数に基づく物価変動の影響を差し引いて算出した指数。労働者が給与で購入できる物品やサービスの量を示す。
収益的収支（p26）	下水道施設の維持管理費や汚水処理費等の支出と使用料等の収入と、下水道事業の経営活動に伴って発生する全ての収益と費用で構成される。
資本的収支（p27）	下水道施設の建設といった支出の効果が次年度以降に及ぶものや企業債の元金償還などの費用と、その財源となる収入で構成される。
補填財源（p27）	「資本的支出」に対する「資本的収入」の不足分を「補う」ための財源であり、「減価償却費」や利益に由来する積立金等が該当する。
内部留保（p27）	減価償却費など、実際にお金の支出がない費用計上や利益等によって生じた、下水道事業の内部で留保される資金。
GX（p14, p23）	「グリーントランスフォーメーション」の略。産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体の変革を行うこと。下水道においては、創エネルギー、省エネルギーの取組、再生エネルギーの利用拡大や下水道資源の有効利用等が挙げられる。
DX（p19）	「デジタルトランスフォーメーション」の略。下水道におけるDXは、下水道事業が抱える課題や社会経済情勢の変化に伴う新たな要請への対応を見据え、データとデジタル技術の活用基盤を構築し、さらにこれを徹底活用することで、業務そのものや、組織、プロセス、を変革し、下水道の特徴と進化を実現させることにより、国民の安全で快適な生活を実現すること。
Iot（p21）	「Internet of Thing（モノのインターネット）」の略で、従来通信機能を備えていなかったモノ（生活用品、家電、自動車、工場の製造設備等）がインターネットにつながり、便利なサービスを提供していくこと。下水道においては、各種センサーやカメラ、タブレット端末により、流入水量や水質、電力使用量、薬品量、各種設備の稼働率、気象情報等を収集・分析し、自動制御による効率的運転を行ったり、複数処理場を広域化するという全体最適化を行ったり、より一層のコスト縮減や健全な運営につなげていくことが挙げられる。
DR（p14, p23）	「デマンドレスポンス」の略。電気事業者の供給調整だけでなく、ひっ迫時の電力抑制を需要家が行うことで、より安定した電力需給を目指すこと。下水道においては、バイオマス発電や太陽光発電などの発電設備と蓄電池設備等を活用し、施設全体の時間最大電力量（ピークカット）を抑制するほか、処理場に流入する汚水を下水道管内等に貯留し、揚水ポンプを一時的に停止する工夫や、状況を注視しながら送風機を停止させる等の負荷調整により、使用電力量を抑制する手法がある。
ストックマネジメント（p6, p28, p32, p36）	長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、点検・調査、修繕・改善を実施し、施設管理を最適化すること。